

会議録

会議の名称	令和元年度 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議
開催日時	令和元年6月28日(金) 午前10時～午前11時52分
開催場所	清須市役所 南館3階 第1会議室
議題	1 開会 2 あいさつ 3 議事 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略 2020(素案)について 4 閉会
会議資料	会議次第、委員名簿、配席図 〔会議資料〕 資料1 清須市第2次総合計画 後期基本計画の策定のながれ 資料2 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略 2020(素案) 資料3 清須市第2次総合計画 後期基本計画における関連施策のイメージ 資料4 若い世代へのまちづくりに関するインタビュー 結果報告 資料5 平成30年度 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議(第2回)における主な意見 資料6 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況(平成30年度)等について
公開・非公開の別(非公開の場合はその理由)	公開
傍聴人の数	0人
出席委員	水谷委員(座長)、名倉委員、小川委員、浅井委員、高山委員
欠席委員	福井委員、高橋委員、牧野委員
出席者(市)	宮崎企画部長
事務局	〔企画部企画政策課(企画政策係)〕 後藤企画政策課長、服部課長補佐兼係長、石附主査、服部主事
会議録署名委員	浅井委員、高山委員
1 開会 (後藤企画政策課長)	それでは、皆様お揃いになりましたので、ただ今から令和元年度 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を開催させていただきます。

皆様には大変お忙しい中、またお足元の悪い中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

私は企画政策課長の後藤と申します。よろしくお願いいたします。

それでは初めに、事務局から出欠の状況を報告させていただきます。本日、福井委員、高橋委員及び牧野委員につきましては、他の公務があるということでご欠席となっております。

それでは、会議の開催に当たりまして、宮崎企画部長からごあいさつを申し上げます。よろしくお願いいたします。

2 あいさつ

(宮崎企画部長)

改めまして、おはようございます。企画部長の宮崎でございます。よろしくお願いいたします。

日頃は市政各般にわたりまして、皆様のご理解、ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。また、本日は大変お忙しい中、またお足元の悪い中、総合戦略推進会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

さて、本市では令和2年度から始まる第2次総合計画の後期基本計画と一体的に、次期総合戦略の策定を進めているところでございます。昨年度の第1回の会議では、委員の皆様へ策定の考え方などについて、第2回の会議では、骨子案について協議をしていただきました。

本日の会議では、委員の皆様からいただいたご意見や、若い世代へのインタビュー、市民満足度調査の内容を踏まえて作成いたしました次期総合戦略の素案について、ご協議いただきたいと思いますと考えております。

また昨年12月に本市の人口は69,000人を超えるなど、これまでの取組の成果は着実に現れてきているところでございますが、将来の状況を見据えて、今後も持続的なまちの発展を実現するために、委員の皆様それぞれのお立場や視点から、活発なご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

簡単ではございますが、私からのあいさつとさせていただきます。

本日はよろしくお願いいたします。

(後藤企画政策課長)

ありがとうございました。それでは、これから会議を始めさせていただきますと思います。ここからの会議の取り回しにつきましては、水谷座長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(水谷座長)

皆様、おはようございます。

それでは初めに、本日の会議の会議録署名委員の指名をさせていただきます。

昨年度の会議では小川委員までご署名いただきましたので、今回は名簿順に、牧野委員がご欠席ですので、浅井委員と高山委員にお願いをいたします。よろしくお願いいたします。

次に、議事に入る前に、次期まち・ひと・しごと創生総合戦略を含めた、第2次総合計画の後期基本計画の策定のながれについて確認をしたいと思いますので、事務局からご説明をお願いいたします。

(石附企画政策課主査)

【資料1を説明】

(水谷座長)

ありがとうございます。ただ今のご説明につきまして、委員の皆様、ご意見やご質問はいかがでしょうか。市民の皆様から色々な手法で意見をいただいているということ。それから、今年度はかなり進み具合が良いのではないかと思いますので、かなりまとまってきたので、それぞれのお立場からご意見いただけましたらありがたいと思います。

このまま進めてもよろしいですか。ありがとうございます。それでは、策定のながれにつきましては、このとおりに進めるということによろしいでしょうか。

「異議なし」の声

ありがとうございます。

3 議事 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略2020(素案)について

(水谷座長)

それでは、議事に移ります。

本日の議事は一つということで、清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略2020の素案にかかるご意見を、少しずつ区切っていただきたいと思います。

まず、資料2から資料6までを事務局からご説明をお願いいたします。

(石附企画政策課主査)

【資料2～資料6を説明】

(水谷座長)

ありがとうございました。かなりまとめていただいて、ありがとうございます。

今日はこれからご議論いただくのですが、この内容については総合計画審議会の方

にも反映されていくということで、順番にご議論いただきたいと思っております。

三つの基本目標があり、その三つの基本目標ごとに数値目標があり、その数値目標を達成するための取組に関する基本的方向があり、さらにそれぞれを実行するための具体的な取組とK P Iがあるということです。

やや複雑ですので、順番にいきたいと思います。この後、三つの基本目標ごとにご意見をいただいきたいと思いますが、まずは資料2の1ページから2ページの左側、「1 策定の基本的な考え方」と「2 基本目標」についてご意見を伺っていききたいと思います。いかがでしょうか。

(高山委員)

範囲を飛び出してしまうかもしれませんが、2ページの左側のグラフについて、前回の骨子案と比べると、数字が変わっていることは気づいたのですが、先ほどの説明で既に69,000人を超えているので見直したということですが、2ページの右側の20歳代から40歳代の人口、これも同じように変わっているのでしょうか。

(石附企画政策課主査)

はい。そうです。

(高山委員)

ここの2020年に対する現状というのは、こっちも数字を変えて良いのか、むしろ、まち・ひと・しごとの基本目標からすると、こっちの数字のほうが大事なのかなと思ったのですが。

(水谷座長)

すみません、確認ですが、2ページの清須市の人口の今後の見通しの部分ですね。

(高山委員)

そうですね。現状で2020年を十分超える、オーバーするペースになっているのか。

(水谷座長)

はい。確認いたします。事務局、いかがでしょうか。

(石附企画政策課主査)

そうですね。これは2020年の推計値ということで、来年に国勢調査がある予定なので、ほぼこの傾向で推移しているという状況になっております。

前回までの会議でお伝えさせていただいたとおり、三菱社宅の建設などがありまして、2015年から2020年までの間、かなり人口が増加しているという状況もありまし

て、推計の考え方としては、2020年までは移動率を少し高い設定で見込んだところなのですが、それ以降については、もう少し長期的なスパンで見て移動率を設定しております。そうしますと2045年まではこのような状況になっていくということが見込まれるところです。

(水谷座長)

かなり想定というか、前提のところを丁寧に設定していただいているとお聞きしておりますが、よろしいですか。

(高山委員)

ありがとうございます。恐らく人口が増える中で、20歳代から40歳代が相当数増えているだろうと、そんな気はするところですが。

(石附企画政策課主査)

そうですね。2020年以降も同じ状況、直近の特殊な状況だけではなく、長期的な趨勢で見ると、若い世代が増加していくばかりの傾向ではないというのが、このデータで分かるかと思えます。

(水谷座長)

増加率は今だけ高いのではないかということですね。

(石附企画政策課主査)

そうですね。少し高めに設定して推計をしている状況です。

(高山委員)

恐らく2020年以降は一定の計算、コーホート要因法で計算をしているということですね。

(石附企画政策課主査)

はい。そうです。

(水谷座長)

ありがとうございます。他の委員の方はいかがでしょうか。よろしいですか。ありがとうございます。

(水谷座長)

それでは、三つの基本目標の中身に移っていきたいと思います。

事務局よりご説明がありましたとおり、本日皆様からいただいたご意見を踏まえてこの素案に修正を行った上で、総合計画審議会で審議を進めていくということで、まず、2ページの右側から3ページの左側「基本目標① 定住する若い世代をふやす」という目標について、本日ご欠席の福井委員から書面でご意見をいただいておりますので、そちらをご紹介させていただいて、議論の方に入りたいと思います。

福井委員からは、

- ・ K P I 「20 歳代～40 歳代の地域防災リーダー養成講座受講者数」が増加することで、基本目標①「定住する若い世代をふやす」が達成されるのか、その連鎖が不明。
 - ・ 以下の②③も同様であるが、「数値目標」と「K P I」の関係が分かりにくい。様々な数値目標の中で、特に重要な指標がK P Iであり、別掲している意味があるのか。
- というご意見をいただいています。

皆様、まずは福井委員のご意見について、関連するところがございましたら、ご意見いただければと思います。非常に重要な部分かと思えます。

基本目標①の数値目標が「住民基本台帳に基づく20歳代～40歳代の人口数」で、そういったものがK P Iとどう関連してくるのか。指標の取りにくさ、取りやすさなども関係すると思えます。

小川委員、いかがでしょうか。

(小川委員)

K P Iの「『子育て世代包括支援センター』を知っている市民の割合」ですが、知っているか、知らないかということではなくて、上の丸の1番目に「利用ニーズを充実します」と書いてありますけれども、利用ニーズの内容がちょっとここでは分からないのですが、ニーズを充足しているのか、していないのか、どの程度充足したかということの方が大切なのかなと思います。ニーズがちょっと明確ではなくて、この資料からは読み取れないのですが。

(水谷座長)

ありがとうございます。一つずつお答えいただけますか。

(石附企画政策課主査)

今の小川委員のご意見ですけれども、まずは「取組に関する基本的方向」の中で、保育・幼児教育と放課後等における活動の場についての利用ニーズを確実に充足していくということがありまして、そのための具体的な取組として、民間事業者の誘致な

ど多様な方法を活用して利用ニーズを確実に充足していこうということです。それを測るための指標としては、K P Iの一番上でございます「保育園の入園待機児童数」を設定して、利用したい方が確実に利用できている状況であるかどうかを測定していきたいと考えています。

(水谷座長)

K P Iの二つ目はいかがでしょうか。

(石附企画政策課主査)

そうですね。どのK P Iがどの取組と連動しているのかということを示していないので、少し分かりにくいのですけれども、『子育て世代包括支援センター』を知っている市民の割合」については、基本的方向の二つ目でございます、妊娠・出産期から子育て期を過ごす方が、ワンストップで情報を得ることができ、必要なサービスを必要なときに受けることができる環境づくりを強化するという方向性のもと、具体的な取組の二つ目でございます、子育て世代包括支援センターについて、多様な媒体による周知など利用促進を図ることにより、子育て世代を支援するためのワンストップ拠点として地域への定着を図っていくというところでございます。

そこで、地域に定着していっているということ測定するK P Iといたしまして、子育て世代包括支援センターを知っている市民の割合を取っていきたいと考えております。

(水谷座長)

ありがとうございます。ちなみに、先ほどのK P Iの一つ目なのですが、「保育園の入園待機児童数」で測るということですが、恐らく利用ニーズは多様なニーズがあるかと思えます。まずは入園をしたい、入りたいという大きなニーズがあり、その他にもニーズをお聞きすればするほど多様なものがあると思うのですが、まずは大きな切り口というところで考えたらよろしいでしょうか。

(石附企画政策課主査)

そうですね。

(水谷座長)

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

名倉委員、いかがでしょうか。

(名倉委員)

若い世代が定住するということであれば、とりあえずはお子さんを育てる環境が重

要視されるのだと思います。確かに、地域防災リーダーとそれが結び付いていくのかどうかというのは、ちょっと疑問はありますけれども。

保育園の待機児童数ゼロとか、子育て世代包括支援センターをもっと市民に周知すること、これはかなり必要なことだと思います。

若い世代の定住ということになると、商工業を支援する私の立場としては、経済効果を生むという意味で、基本目標②の観点からの方が重要なのかなという部分がありますね。

(水谷座長)

そうですね。では、また基本目標②のところでしっかりお聞きしたいと思います。ありがとうございます。

基本目標①について、浅井委員、いかがでしょうか。

(浅井委員)

皆様が言われることで、事務局からの説明でも十分理解できますので、福井委員のご意見に関してはこれとってコメントはございません。

(水谷座長)

ここは難しいところですね。

(浅井委員)

そうですね。難しいと思います。

(水谷座長)

ありがとうございます。

それでは高山委員、お願いします。

(高山委員)

数値目標とK P Iとの連携というのか、そのところで2ページの数値目標の二つ目に「今後もこの地域で子育てしていきたいと思う3歳児の保護者等の割合」とありますが、これは骨子案から変わって、新しく入っている数値目標ですけれども、3歳児に限定した理由、またそれと連動してK P Iという言葉も、前ははかっこの中の漢字で書いてあって、最初はK P Iって何だろうと思いました。

3歳児に限定しているのはなぜかというところと、3歳児の保護者等の割合を測るためのK P Iというのは、どのような位置付けになってくるのでしょうか。

(水谷座長)

それでは、事務局からご説明をお願いします。

(石附企画政策課主査)

基本目標①の数値目標、「今後もこの地域で子育てしていきたいと思う3歳児の保護者等の割合」は、今回骨子案から入れ替えをしているところでもあります。前回の骨子案では、「清須市に住み続けたいと感じている20歳代～40歳の市民の割合」を市民満足度調査で測っていくということを予定していたところでございます。

数値目標なのですが、今後のフォローアップをしていくに当たって、できれば定期的に数値を取れるものにしていきたいというのが事務局の意図としてありまして、こちらの3歳児の保護者等の割合でございますが、3歳児健診の保護者等へのアンケートで毎年取っている状況でございます。3歳児、4歳児、5歳児の健診があって、データがあるのですけれども、年齢が上がるにつれて定住しているであろうということが想定されますので、3歳児であればこれから住むところを考えるという方も比較的多いのではないかとこのところでもありますので、それを踏まえましてこのような形で設定しているところです。

もう1点、KPIですね。3ページの左側でございますが、KPI、重要業績評価指標とありますが、なぜこの言葉を使っているかといいますと、昨年、策定の基本的な考え方をお示しした際に少しお話しさせていただきましたが、地方創生の総合戦略というものの自体が、まち・ひと・しごと創生法に基づいて市町村が定める計画ということで、ある程度国が示す大枠の位置付けがあります。その中で、KPIというものを設定しなさいというルールがありまして、それに沿って作っているというのがこの言葉を使っている趣旨でございます。

総合計画では達成度指標という言い方をしてしまっていて、言葉の使い方が複雑な部分はあるのですけれども、総合戦略においては数値目標とKPI、これが連鎖する関係を作っていくということが重要な視点と考えています。

(水谷座長)

いかがでしょうか。

(高山委員)

「今後もこの地域で子育てしていきたいと思う3歳児の保護者等の割合」をKPIで、何か最終的に検証しなくてはいけないということでしょうか。

(石附企画政策課主査)

そうですね。基本目標①として「定住する若い世代をふやす」という目標を持っていくところでありまして、それが実現できているかどうかを測る数値目標がこの二つでございます。それを実現するために個々の具体的な取組をしていくわけですが、

その具体的な取組が進んでいるかどうかを測るための指標がK P I という関係性になります。

(高山委員)

ありがとうございます。カッコ3のK P I の項目自体、今回新しく具体的に入っているところで、上の5項目に対して測る指標という関係ですかね。

(水谷座長)

そうですね。複雑で分かりにくいですね。

(石附企画政策課主査)

本来であれば、先ほどお話しさせてもらったとおり、五つ取組があって、それぞれにK P I が付いているべきだということもあるかと思いますが、指標が多くなってしまうと、どれが大事なのかというのが少しぼけてしまう部分があるかなということで、あえて少し絞っているところでございます。

(水谷座長)

ありがとうございます。

私からも1点よろしいでしょうか。K P I の二つ目に『子育て世代包括支援センター』を知っている市民の割合」という指標を設けていらっしゃるけれども、子育て層、もしくはこれから子育てをする方々が知っていることが恐らく大事で、それにはシニアの方がたくさん知っていて、コミュニケーションがあって、そこから伝わっていくという意味で全体を取っているということかとも思いますが、具体的な取組、施策に落とし込む時には、例えば転入する方、住民登録をされるような方にチラシをお配りするとか、部署を越えた連携というのが必要になってくるのかなと思いました。

ですので、このK P I にはするのですけれども、若い世代が知っているということが大事かなというふうに思います。よろしいでしょうか。それを取るということは難しいでしょうか。

(石附企画政策課主査)

そうですね。水谷座長がおっしゃるとおり、30.5%というのは全世代で取っている割合なのですけれども、20歳代から40歳代に絞れば、数値は高い状況になると思います。

(水谷座長)

そうなのですね。

(石附企画政策課主査)

ただ、やはり水谷座長が言われたように、全世代に知っていただいて、地域への定着を図ることが大事にしていきたい部分ですので、この取り方にしていきたいと考えています。

(水谷座長)

分かりました。ありがとうございます。

それでは、福井委員のご意見に対しては、事務局から何かございますでしょうか。

(石附企画政策課主査)

福井委員からのご意見につきましては、この策定に当たって市民参画会議を開催しているところでございますが、若い世代の方に清須市に住み続けたいと感じていただくためには、安心・快適な環境の確保ということが非常に重要な要素であるということを感じています。防災の観点から、市民に安全なまちだと感じていただける状態を作るためには、やはり行政による公助だけではなく、自助、共助というところの充実が欠かせないであろうということが、市民参画会議を通じて我々が感じているところでございます。

若い世代の方に積極的に地域の防災活動に関わっていただくことで、若い世代の方たちがその活動に関わることで自助や共助が充実して、住む安心にもつながっていくのではないかと。そういうことでこの取組とKPIを設定しているところでございます。

(水谷座長)

ありがとうございます。地域防災リーダーは全国で今まさに増えているところだと思います。防災は誰にでも関係するという意味で、防災からまちづくりに入るとか、防災から教育に入る、子育てに入る、色々な取組に入るプラットフォームみたいなところもありますので、その人たちが充実していくというのは非常に重要なことというふうに私も思います。そのようにお答えいただいてもよろしいですか。

質疑応答についてはこれで終了したいと思いますけれども、皆様、こちらでよろしいでしょうか。次に進めてよろしいですか。

「異議なし」の声

それでは、基本目標②に進みます。

次に、3ページ左側から4ページの右側、「基本目標② 市の『強み』を生かして経済効果を生む」という目標について、こちら福井委員から書面でご意見をいただ

いておりますので、ご紹介させていただきます。

- ・ 市の「強み」と言っている交通利便性は、何か根拠があるのか。
- ・ K P I「観光協会ホームページのアクセス件数」を増加させるための取組が不明。こちらについて、先に事務局から何かあればお願いします。

(石附企画政策課主査)

まず1点目でございますが、こちらもそうなのですが、市民参画会議の中で、名古屋駅に至近の立地や、高速道路のインターチェンジを有するといったことで、清須市の交通利便性は高いというご意見を多数いただいているところです。この点を踏まえた記載とさせていただいているところでございます。

2点目につきましては、観光協会ホームページのアクセス件数の増加に向けまして、まだ内部で調整が必要な部分がありまして、何をやっていくということまで落とし込めていないところではあります。例えばホームページをリニューアルしたり、コンテンツを追加したり、そういうことをやっていけないかという検討を進めていきたいと考えております。

(水谷座長)

ありがとうございます。それでは、皆様のご意見、ご質問をいただきたいと思えます。基本目標②について、いかがでしょうか。

(名倉委員)

市の強みということで、福井委員さんからも交通利便性のことが取り上げられていたかと思うのですが、清須市は名古屋に近い、本当に10分で、電車1本で名古屋に行けるということで、良い意味では名古屋に出ることがすごく短時間でできるということはあるのですが、逆に若い方の働き手というのが、清須市で働くのではなくて、名古屋や栄地区ですとか、清須市外に出ていってしまって、現実私たちが商工会という立場で会員の事業所さんを回ると、結局やはり人手が足りないということが最初にお話に出てくるのですね。

そういう中で、商工会に何ができるのかなということを考えた時に、いかに若い方に市内の事業所で働いていただくか、これが一番の目標というか目的、役割ということになるものですから、それに向かって色々な手法とか方法論を考えているのですが、逆に強みが弱みになるという、逆の面もあるということは認識していただかないと、交通の利便性が良いから経済効果が生まれるという単純な発想だと、事業者さんからすると「本当に現実が分かっているのか」と言われかねないということもあるかと思っておりますので、それは認識していただいた方が良いかなと思います。確かに近いから強みもあるのですが、逆もあるということはこの部分で感じました。

(水谷座長)

ありがとうございます。弱みにも十分なり得る、実態としてなっているところがあるというところですね。

(名倉委員)

担当の方ともお話をする中で、そういう一面もあるということで、資料3を見ていただくと色々な商工業の振興の手助けというか、施策を展開していただいている、特に商工会への支援を施策の展開の1番に置いていただいている、産業課さんを始めご協力をいただいています。商工会に対しての補助金なんかもいただいている、商工業者さんにプラスになるような施策に取り組んでいただいていると思いますが、そういう半面もあるということをお話していただく、強みも弱みになるということもあるのかなと思います。

(水谷座長)

ありがとうございます。どこかに一言だけ、その部分を入れられないでしょうか。基本目標②の最初に「市の『強み』である交通利便性」ということがあって、そのとおりの部分もあるのですが、市外へ流出していくことを防ぐために何をやるのかとか、その施策も大事だよということがどこかにうたわれると、そうだよねということになるのでしょうか。

(名倉委員)

例えば、交通利便性のある半面、地元で働く方のバックアップというのか、市として他市町村にはないようなバックアップができるというようなことが入ってくると、説得力がありますよね。

(水谷座長)

そうですね。

(名倉委員)

なかなか今の数値目標も、事業所数も従業者数も現状維持という状況なのですから、伸ばすということはまず今の状況だと不可能なくらいなものですから、現状維持もしくは本当に緩やかな減少にするというのが現実ですね。

(高山委員)

今お話を聞いていて思ったのですが、交通利便性というのは確かに読んでいて引かかる部分がありました。外から事業を立ち上げにきてくれるということがある半面、名古屋のベッドタウンとして考えれば、ベッドタウンで人口が増えれば、そ

それはそれでお店とか飲食店とかが潤ってくるのかなと思うので、その半面の部分で、数値目標が創業とか事業所数の話ばかりで、間接的に名古屋のベッドタウンとして住む方から見た指標、目標がついていないというところで、そのミスマッチに違和感があるのかなと思います。

(水谷座長)

なるほど。例えば、どんな目標がありますでしょうか。

(高山委員)

どういう数値目標があるのでしょうかね。どちらも最終的には、要は人口が増えるわけですから、ベッドタウンであってもそれはそれで、住む人が増えれば、当然お店にも足を運ぶでしょうし、間接的には強みになるのかなと思うのですけれども、片面性の方の強みに対する数値目標がないというところかなと思います。ただ、最終的に目標を三つに分けていますが、三つとも相互に連動するという話かなというのは、最後に言おうかなと思っていたところです。

(水谷座長)

結局人口が増えるのではないかという話ですね。

(高山委員)

結局そういう方向に進んでもらうようにしないといけないし、というところで目標①の方に戻ったり、そういう話になっていくのかなという気はします。

(水谷座長)

なるほど。例えばですね、今のお話ですと、ちょっと名倉委員とは違うかもしれないのですが、市内の小売業というか、そういったものの売上の増加とか、年商とか、そういったものは見ることはできるのでしょうか。

(名倉委員)

そうですね。我々は地域の経済動向とか、ある程度ピックアップして事業所さんの売上なんかもお聞きしたり、指標にさせていただいたりしていますが、確かに売上が上がったかどうかというのは、ある程度決まった事業所さんに関しては分かるのですけれども、清須市全体の小売業者さんとか、商工業者さんで売上が上がったかどうかというのは、それこそ税務署とか、そういうところは売上のことが分かっているので、そういうところに確認しないとできないと思うのですけれども、なかなかそういうものは表に出てこない数字なので、何か逆にあるのですかね。

(石附企画政策課主査)

統計資料として、市内の卸売業・小売業の年間商品販売額というのは取ることは可能です。

取ることは可能なのですけれども、これがなかなか難しいところで、事業所数なのか、商品販売額かといったところで、一つ商品販売額がすごく大きな事業者さんができたりすると大幅に増えたりですとか、かなり状況によって、経済動向といいますか、それに左右されてしまうところがありまして、具体的には市内の卸売業・小売業の年間商品販売額は2007年には1,532億円でしたが、2014年には2,995億円になっています。ほぼ倍増に近いような状況になっていまして、これをどこまで増やすとか、その目標が少し置きにくい状況にあります。

(水谷座長)

市の施策との連動が難しいということですね。

(名倉委員)

確かにそういう問題がありました。大きな事業所が、例えば大規模店舗が来ると売上が大きく上がってしまう。商工業者さんとか、小規模事業者さんの実態と合っているかといったら、多分その数値は乖離している、実態とは合っていないという問題が確かにありました。

我々は商店主さんをピックアップして、100件、200件の本当の小規模事業者さんの売上なんかを数年前くらいから聞いているのですけれども、それも本当にどこまで実態かというとなかなか難しい部分があるなというところなのですね。基本的に下がっているというふうになってしまうものですから、なかなか難しいです。

(水谷座長)

そういった方々が経済的に潤っていくことが大事なのでしょうね。

(名倉委員)

そうですね。本当の末端といったらあれですが、お父さん、お母さんでやっている事業者さんから、例えば従業員さんが2、3人いらっしゃる本当の小規模事業者さん、そういう方々が日本の経済を今まで支えていたというところが段々なくなってきてしまったということにより、日本の経済が盤石なものではなくなってきたという問題になっていると思うのですね。後を継ぐ方もいらっしゃらないし、息子さんは親の苦勞を見てやらないというのが現実で、国も事業承継を一生懸命やらなくてはいけないというけれども、現実とはなかなかマッチしないというところですね。

(水谷座長)

市民参画会議でも事業者さんが何人か、経営されている方もいらっしゃるのですが、やはり地元で今頑張っている人たちが更に頑張れる、そして潤えるということが大事なのではないかということも意見が出ておりましたので、そういった指標をここに入れることは今の段階で難しいでしょうか。

(石附企画政策課主査)

我々も数値目標に何を入れることができるのかということを考えてきましたが、状況を取るものとしては、今はこの三つが最善なのかなというふうに考えています。

ただ、「取組に関する基本的方向」の中で、1番目でございますけれども、「交通利便性や豊富な歴史資源・観光資源などの市の『強み』がある中で」ということで、今回骨子案から表現を変えていまして、骨子案では「市の『強み』を積極的に活用して」と書いていたのですけれども、先ほど高山委員、名倉委員がおっしゃられたとおり、これをどう活用するかというのが今の段階ではまだ模索している部分がありまして、確実に強みではあるけれども、弱みという部分でもあるというのは当然認識している中で、強みの部分を生かして商工事業者さんがより魅力的な事業をやっているような状況を作っていこうというのが、市がやれること、商工会さんと連携しながらやれることなのかなということと考えておりまして、高山委員が言われるように人口が増えれば市場性があるのでお店が入ってくるというのは当然あるのですけれども、その魅力をより高めていこうという方向性になってくるのかなというところで、このような形にさせていただいています。

(浅井委員)

資料6にありますRESASですが、これをうまくリンクさせて、数値的なものですね、人口の流れが主になるのか分からないのですけれども、この地域経済分析システム、RESASを利用して、色々な計画などを考えられてみえるとは思いますが、その活用ということで、人口の流れも絡めた話であれば、産業構造や人口動態とか、そのあたりの人の流れとかを何とかうまくこれで表わせないのかなというような感覚ではあるのですけれども。

(水谷座長)

資料6の1ページですね。数値目標の中の「経済産業省と内閣官房が提供する地域経済分析システムの提供データ」、これをもっと活用できないかということですね。

(浅井委員)

あとはREVIC、地域経済活性化支援機構というものもあるので、それと絡めながら、事業者さんとマッチングを図ったり、そういったものも必要なのかなと思います。

(水谷座長)

なるほど。これは、清須市というエリアで絞れるのでしょうか。

(浅井委員)

全国的な分布はあっても、地方に限ってはどこまで精緻な数値が出るのか私も分からないところがあるのですけれども、こういった資料とかデータ、システムがあるのであれば、活用をご検討いただいて、地域経済の活性化につながれるものであれば活用を願えればと思います。

(水谷座長)

大変貴重なご意見ありがとうございました。事務局に伺うのですけれども、この地域経済分析システム等の項目というのは把握されていますでしょうか。

(石附企画政策課主査)

浅井委員がおっしゃられた地域経済分析システム、RESASですけれども、項目を全て見させていただいて、どのデータが使えるのかを判断した上で、ここの関係データで取っております創業比率、こちらは生の統計数値では出ていないものでございまして、総務省の経済センサス基礎調査をもとに作成ということで、こちらもRESASが出典となっています。

その中で、どの数値が使えるのかということは見ているのですが、例えば観光入込客数は県単位でしか取れなかったりしますので、使えるもの、使えないものがございまして、市のレベルで取れるものについてはRESASを使って取っていきたいと考えております。

(浅井委員)

規制があったり、この人だったらここまで取れるとか、そういうものも結構あるのですか。

(石附企画政策課主査)

市町村、地方公共団体しか見ることができないデータもありますが、なかなかそういうものは計画には載せられないというところがございます。

(浅井委員)

産業マップとか、観光マップとか、そういったものも含んでということですね。

(水谷座長)

ありがとうございます。基本目標②の数値目標については、今3種類挙げていただ

いていますが、これについて売上等にするのは難しいということで、また指標も R E S A S を検討した上での指標ということです。高山委員、いかがですか。

(高山委員)

細かい話ですけれども、数値目標の目標値のところ、前回の会議でもご意見がありました、「市内の創業比率」の目標値が県平均以上という、何か目標というか結果論ではないかなというふうに思います。

あと2番目、3番目の数値目標も、骨子案の時には目標値が具体的に何事業所とか書いてあったのですが、「基準値を維持」というのは見れば分かるのですけれども、2番目が維持で3番目が増加と、グラフを見るとそういうイメージなのかなとは思いますが、文字にすると分ける意味があるのかな、両方増加で良いのかなと、そんな感じがいたします。

(水谷座長)

目標値についてですね。これはもっとうした方が良いというご意見があれば、いかがでしょうか。

(名倉委員)

民営事業所数の現状維持というのは、前回の経済センサスでも事業所数がやはり軒並み減っているというようなことで、商工業者数も171企業減っていたのですね、5年前の調査から。ですから、基本的に増加はまず不可能だから現状維持を目標にしていこうという、多分お話し合いの中でそうなったと思うのです。

ただ、事業所数は減っても、そこで働く人が増えれば新たな住民が増えるので、そこで働く環境を整えて、働く人を増やそうという目標で基準値から増加しようという、多分そういう意味でまとめられたのだと思います。

(水谷座長)

事業所数は現状維持でも精一杯頑張っているというところですね。その上で、従業者数は増えていくということで、今いる企業さんに頑張ってもらおうという、そういうふうなところが、ここから読み取れるということですかね。

(名倉委員)

逆に数値を入れてしまうかですね。可能か、不可能かは別として。現状維持なら2,400事業所になるのか、従業者数は30,000人の目標にするのか、そういった方が分かりやすいのかもしれないですね。ただ、なかなか数値を入れてしまうと難しいのはよく分かりますが。

(高山委員)

細かい話ではあるのですけれども、維持というとはやはり 2,495 事業所を維持しなければいけないし、2,496 事業所になったら増加だし、2,495 を目標にするのか、2,496 を目標にするのか、細かいことを考えてしまったものですから。

(水谷座長)

なるほど。意志を強く打ち出していこうというところなのか、まあまあというところなのかという部分も見え隠れしないでもないですね。

事務局の方から、この書き方は何か意図があって書かれたのでしょうか。

(石附企画政策課主査)

そうですね。創業比率につきましては、前回の会議でやはり数値を定めるべきではないかというご意見がありました。創業比率は、創業件数が増えれば伸びるという話ですけれども、社会、経済の状況にかなり左右されてしまうということがありまして、市の取組でどこまで何とかできるのかということがありまして、やはり目標とするところは経済効果を生んでいこうということで、そのために創業する方が増える状態を作っていくということを目指してはいるのですけれども、全国的に経済が冷え込んでいる状況の中では、市の取組で数値をここまで上げるということが言えないのではないかなというのがありまして、全県的な状況の中で、ここまではいきたいという意志をこれで示させていただきたいなというところなんです。

(水谷座長)

ありがとうございます。高山委員、他はよかったですか。

(高山委員)

今回初登場のかっこの3番、K P Iの方ですけれども、もっとどうでも良い話になってしまうかもしれませんが、観光関係でこそさっきの「知っている人の割合」とかそういうものを、例えば本当に思いつきなのですが、新清洲駅の南側になるのですかね、通り沿いに信長の若い頃から順番に陶器、陶芸が並んでいます、私はずっと知らなかったのです。昨年か一昨年か、長篠に行った帰りにたまたま武将の陶芸の展示室みたいなものがあつたので立ち寄ったのですが、清須から来たと言ったら、お手伝いさせていただいたということで、そこで初めて知りました。車で通ってしまうのでゆっくり見られないのですけれども、ああいうものは市民の方は知っているのかなと思いました。

(水谷座長)

ありがとうございます。知っているか、知らないかということ、市民満足度

調査で色々聞くことは可能なのでしょうか。

(石附企画政策課主査)

そうですね。可能ではあると思います。

(水谷座長)

項目は多くなってしまうけれども、大事ですよ。これから清須市が打ち出していきたい、大事にしていきたいものを知っているか、知らないかだけでも、5個ないし6個とか、それくらいを知っているか、知らないかを聞くだけでも、「こういうものがあるんだ」ということを暗にお伝えすることもできますし、それこそまず清須市の皆様の認知を高めていくという意味でとても大事な気がしますが、そういった指標を入れることは可能ですか。

(石附企画政策課主査)

市民満足度調査が今年の2月から3月にかけて実施済みでありまして、指標に入れて基準値を取っていくということができない状態です。

高山委員がおっしゃられた話で、例えば清洲城に行ったことがありますとか、そういったことを聞いて、それを上げていくという、そういう方向性はあるかなとは思いますが、現時点では基準値を取るのが難しい状況です。

(水谷座長)

来年度に取ることは可能なのでしょうか。

(石附企画政策課主査)

市民満足度調査の実施のタイミングというのが、総合計画の進捗管理の中で2年又は3年に1回の実施としていまして、次回の実施が2年後を予定しています。その前までにこの推進会議で意見をいただいていく中で、やはり入れた方が良くはないかという指標があれば、2021年度に実施の市民満足度調査で項目を入れていくことは可能です。

(水谷座長)

なるほど。そういう提案をするというのはいかがでしょうか。今すぐに基準値を取ることは難しいのですが、2021年度の調査に入れていくことは可能ということですか。

(高山委員)

ぜひお願いします。さっきの話に限らず、色々な項目を付け足してご検討いただけたらなと思います。

(水谷座長)

そうですね、それは提案をさせていただければと思います。他にいかがでしょうか。小川委員、いかがですか。

(小川委員)

最初のところにまた戻ってしまうのですが、K P I に少し違和感があったのです。ここでも「清洲ふるさとのやかたでの土産品販売額」とか、K P I を見ている適切なのかなと思いました。

昨年の会議で、観光協会のホームページが非常に小さくて見にくいとお伝えしたと思います。計画を作ることも大切ですが、リアルタイムで直してもらって、きちんと分かりやすくして、直っているのかどうかということが大事で、私にとってはこのK P I のイメージが少し分かりにくいと感じました。K P I を見たら、強みを生かして経済効果を生んでいるのかが分かるかが非常に重要で、強みが何だというのをまず市が打ち出して、それから具体的に何をしていくのかというようなことで、うまく説明できませんが違和感を感じました。

(水谷座長)

ありがとうございます。市の強みを今具体的に挙げるとすると、どういったものになりますでしょうか。

(石附企画政策課主査)

「取組に関する基本的方向」にもありますとおり、交通利便性や豊富な歴史資源、観光資源などというところは、強みであると認識しているところでございます。

その中で、経済効果を生んでいくために、取組として7点挙げているところであります。小川委員がおっしゃられたように、観光協会のホームページにアクセスしていただいて、実際に人が清須市に来ていただいて、おカネを使っていただくというながれを作ることがやはり大事になってくると思うのですが、なかなかその道筋というか、現時点では色々なことを取りかかりにしてやっていこうというところでありまして、それが市内の事業者さんと連携したお土産品であったり、そういう物を買っていただくとか、清洲城に観光に来た方に市内の飲食店に行ってくださいとか、そういう部分で効果を出していけたらということを考えているところです。

(水谷座長)

重要なことですね。広報担当者とか、特に部署を設けたり、今ある部署のどちらの方に力を入れていただくとか、そういったところは見えているのでしょうか。

(石附企画政策課主査)

そうですね。この取組の中で「商工会や観光協会との連携により、効果的な情報発信に取り組みます」という部分について、どういう情報を発信するのかということで、商工会さんとこれまであまり連携していなかった部分もあるかと思imasuので、魅力をたくさんの人に知ってもらうためには、やはり連携して、同じ視点でこういうものがありますとか、こういう場所があるので来てくださいということも同じ発信の仕方をしていければ、それがブランディングといえますか、見え方を合わせていくというところにもつながっていくのかなと思います。

(水谷座長)

ありがとうございます。後ほど小川委員にお聞きしたいのですけれども、その前に浅井委員、こういったブランディングとか広報戦略とか、ものすごく長けていらっしゃると思うのですけれども、そういったノウハウとかを可能な範囲でご提示、ご提供いただくと非常にありがたいと思います。どうしたら清須市の魅力が高まっていくのでしょうか。

(浅井委員)

清須市の魅力は漠然としているので、私も正直よく分からないところがあるのですけれども、清須市には地場産業がないのですね。4町が合併して清須市になりましたが、それぞれの町にも地場産業がなくて、私が生まれ育ったのは瀬戸市なのですが、陶器という地場産業があって、それがもともとあって発展したまちです。今は衰退しているのですけれども、例えば三河の方でいえば西尾の抹茶ですとか、一色産のウナギですとか、高浜の三州瓦とかいうのが出てくると思うのです。

では、清須市は何で売り出すのかということであれば、やはり歴史と観光の二本柱が主になるのではないかなと思います。「清須市観光ルートマップ」というものがありますが、これだけ立派なものをお作りになられているので、もっとももっとこういったものがアピールできたらなというような思いでいるのです。こと観光や産業、歴史とかを前面に出すのであれば、その辺りの発信元ですとか、発信の相手を上手に組み合わせないといけないと思います。この間、私どもの支店がある美濃路で火事があったのですね。清須市で火事があったとってNHKの9時のニュースにトップで出ていたのですが、ただ清須市でというだけであって、日本全国の方が清須市をどれだけ認知しているかということ、信長が生誕したまちというようなところで、果たして何人が分かるのかというようなところもあるので、アピールというか、その辺りがうまくできないのかなと思います。アピール度合いというか、難しいところだと思うのですね。

それに加えて、私どもは金融機関ですので、創業関連のお手伝いですとか、例えば県の保証協会さんとタイアップした融資で、創業5年以内の方であればサポート融資

を2,000万円までならお出ししますよとか、色々な審査基準は当然あるのですけれども、そういったお手伝いもしています。

名古屋駅から近いという、庄内川1本渡れば、急行で須ヶ口駅だったら7分で来てしまうというその立地、地域性を考慮したとしても、私も清須市の住民なので、もっとよく清須市をアピールできたらなという一市民の願いでもあります。

(水谷座長)

なるほど。民間企業さんとのお付き合いが、大手企業さん、中小企業さんとあるということで、魅力アップみたいなことはどうやったら良いですかね。上手な企業さんはやはりあるのでしょうか。

(浅井委員)

中にはありますよね。長年にわたってご商売をやってみえるところですか、清須市に限らず2代目の方が頑張ってみえるところですか、創業間もないお客様でもここ2~3年でたくさんのお取引が始まったり、それは名倉委員もよくご存じだと思いますけれども、そういった中では清須で創業、事業を始められたという方もみえますので、そういう方に対してのサポートですか、ご支援、ご協力は私どもも惜しまないというのが自負としてあるので、それが噛み合えば事業も潤って、経済も潤うところだとは思っているのですが、口で言うのは簡単なのですけれども、実際それを行動に移そうと思うとやはりハードルが高くなってしまっているのが現状だと思います。

(水谷座長)

情報として、もちろん商工会さんもお承知だと思うのですが、地元で頑張っているしゃる企業さんがどこにいらっしゃるのかとか、PRが上手な企業さんがどこにいらっしゃるのかという情報を、もしかしてお持ちだということですよ。

(浅井委員)

それはお取引先であれば。

(水谷座長)

そういったところから勉強することが大事な気がするのですね。まずは、もし連携してやられるということであれば、学生さんも含めて、元気な市民の方も含めて、清須市の良さを売り出すというのはどういうことなのか、という勉強会を何回かやるのがすごく大事なような気がしました。

そして、皆様が力を貸してくださるので、そういった力を有難く頂戴して、盛り上げていけそうな気がしました。そこがやはりきっかけになるのではないかなと思います。

す。ホームページのアクセス数も大事なのですけれども、内々の人たちが、その場で切磋琢磨するのは大事じゃないかなと思います。

とすると、この指標の部分なのですけれども、基本目標③になるのかもしれないですが、つながりづくりとか、実際活動されている方の勉強会とか、そういったものは施策としてはどうでしょうか。

(石附企画政策課主査)

皆様からご意見をいただいたとおり、そういった取組が必要なのではないかというのは我々も認識しているところなのですが、現時点でこの計画に落とし込む中で、具体的な取組の1番目の「商工会等との連携により、創業支援セミナーや中小事業者を対象とした講習会などを開催します」という中で、もう一步踏み込んでどのような形でやっていくのか、またその仕組みをどのように作っていくのかというところは、当然考えていかななくてはいけないと思っておりますが、それを来年度からどうやっていくかという部分で少し未知の部分がありまして、何をKPIにして、何をやっていくというところが、もう少し時間をかけて考えていきたいというところです。

(水谷座長)

KPIに落とし込むところまでは、まだいけないということですね。例えば、ホームページのアクセス数ではなくて、ツイッターの情報発信数とか、フェイスブックの「いいね」の数とかそういったもので、発信だけではなく、そのファンを作っていくというふうな指標の方が、もしかしたら合っているのではないのでしょうか。

名倉委員、どうでしょうか。

(名倉委員)

本当におっしゃるとおりで、小川委員が言われたように、これを見ると活性化するための点と点はいっぱい入っていると思うのですね。これは一つの意見として聞いておいてくださいね。創業数が増える、来場者を増やす、清洲ふるさとのやかたでの販売額を上げる、そういう点と点のことを、どこまでいっても結局今後5年間で清須市がやるべきことは何なののでしょうか。5年間を通して、例えば今ここにある清須市というのは、他市町、全国から見ても、やはり清須という名前は少なからず皆様どこかで認知してみえるし、清須と聞くと織田信長かという、もうそこからの入口があるので、それだけでもかなりメリットではあるわけですよ。清洲城がせっかくあるのだから、例えば北名古屋市さんや、豊山町さんから見ると「清須はお城があるので良いな」ということを現実言われるわけですよ。清須市をトータルとして観光を誘致するための強みというふうに捉えて、清洲城から朝日遺跡まで、今回朝日遺跡も新しい資料館ができる、そのながれを一つの観光の目玉として、どれくらいのおカネがかかるか分からないのですけれども、この5年間でここを一括して、そういう人が集まる、

おまけに清須には全国からも、今の話で交通利便性も良いから人も来るのだからということで、一つのながれを作るといような、そういう大きな目標というか目的というか、そういうものをやはり何か作らないと、一つひとつのホームページのアクセス数を増やしたり、お土産品を開発したり、来場者を増やすということだけの点と点だけでは、なかなか線になって、面になってこないのです。

ですので、一つ大きな目標みたいなもの、これができるのは国だったり、県だったり、市だったりという行政が働きかけて、そこに商工会が「まちゼミ」をやったり、「桜まつり」でお客さんを集めたり、そういうバックアップをするという、それは事業者さんもそうだと思うのですけれども、そこに人が集まってきて、創業する人も増えてくるという、そういう形に持っていけないと、清須市自体が発展するのかわかるとしたら、なかなか点と点だけを増やそうと思っても、現実的にはなかなか難しいのではないかということ、我々が清須でお土産屋さんをバックアップしていて痛感します。

だから清須市がそういうことをやっていかななくてはならないと、それだけではなくて、皆様の自助努力というのは絶対一番必要なのですけれども、そういうところには行政のバックアップがあると、より事業者さんはお仕事もしやすくなるし、人も集まってくるのかなと思います。

(水谷座長)

なるほど。可能かどうか相談ですけれども、ご意見いただきたいのですが、今のお話でK P Iのところ、落とし込むとすると、下から二つ目と一番下、「オリジナル土産品の開発件数」と「観光協会ホームページのアクセス件数」のところ、例えば今はお土産品の件数ですけれども、それはそれで良いかもしれないのですが、ホームページの前に、目玉となる大きな商品なのか売り出す物、サービスなのか、そういったものを作り出し、それをPRしていく、というような表現を一つ加えると、今の名倉委員のお話がK P Iに落とし込まれやすくなるのではないかと思います、いかがでしょうか。

また、先ほど浅井委員にご紹介いただいた「観光ルートマップ」というものがあった、それはそれで魅力的なのだけれども、私たち清須市民として「これだ」という1個大きな目玉みたいなものがあると分かりやすいということかと思うのですが、いかがでしょうか。そういった方向性というのは可能ですか。

(石附企画政策課主査)

そうですね。今ご意見をいただいたところで、それをやるという目標にした場合、5年間かけてやっていくということが、まだちょっと言えるかどうかというところがまずあるのです。

今の名倉委員のご意見の中で、やはり一番大きな目標というのは、どこまでいって

も経済効果を生むという目標を定めていまして、創業件数であったり、あとは事業所数、従業者数を増やしていくというところが大きな目標としてある中で、点としてある観光協会ホームページとか、オリジナルお土産品の開発を入口にして、目標に向かっていきたいというところがあるのですけれども、そこが小川委員が言われたとおりにちょっと遠いのかなというのは我々も認識していまして、その道筋が完全にセットされた状態でこの計画が作れるかどうかというのが一番ネックになっている部分でありまして、それは今回、5年間かけてやっていきたいということでもありますので、さしあたりこれを定めた上で、やらせていただけたらなというところでもあります。

(水谷座長)

ここでは書かないけれども、というところですね。
名倉委員、いかがでしょうか。

(名倉委員)

それはこちらも分かっていますので、それをやるとなると例えば5年ではとてもじゃないけれども無理ですから、10年、20年、30年計画くらいでやらないと現実的には難しいというのも重々承知でお話はさせてもらっているものですから、5年計画だと、こういう点と点のことをとりあえず増やして、だんだん盛り上げていこうというような構成になってくるのかなと思います。

(水谷座長)

そうしましたら、K P Iに入れるかどうかは別として「商工会や観光協会との連携により」というのが、施策 501・施策 502にあるので、連携がどれくらい図られたのかという指標というのはいかがでしょうか。

(石附企画政策課主査)

そうですね。まずはそれをどうやっていくのか、からだと思いますので、そこから始めさせていただきたいと思います。

(水谷座長)

分かりました。非常に重要な取組ですし、まだあまりされていないということですので、ぜひスタートをしていただければと思います。ありがとうございます。

長くなりましてすみません。それでは、基本目標③について、いかがでしょうか。
ちなみに、福井委員からは、

- ・ 取組に関する基本的方向の「情報共有の場づくり」は、K P Iのどの指標にリンクしているのか不明。

というご意見いただいております。いかがでしょうか。
高山委員、お願いします。

(高山委員)

かっこの3番の「具体的な取組とK P I」のところですけども、取組の二つ目に「様々な機会をとらえて、『市民協働ハンドブック』などを活用して」とありますが、「市民協働ハンドブック」はもうホームページか何かで見ることができるのでしょうか。ちょっと何かぼやっとした記載ですので。

(水谷座長)

まず聞いてみましょうか。

(石附企画政策課主査)

高山委員には行政改革推進委員会の方でもお伝えさせていただいていますが、市民協働の取組をやっていかなければいけないということで、昨年度から市民協働係という組織が企画政策課内にできております。市民協働を推進するという必要性は十分認識しているのですけれども、何からやっていくのかというところで、やはりまずは市民協働とはどういったもので、どうやって進めていったら良いかということを知りやすく冊子にさせていただいて、つい先日これが出来上がったところでして、公共施設への配架をしているところです。

それをベースに、まずはそれを手に取っていただけて読んでいただくことで、市民協働はすごく広い捉え方ができるとは思うのですけれども、例えば社会に貢献できることならやってみたいとかそういう気持ちがある方が、そういうことに取り組んでいただく第一歩になればということで、このような記載をしています。

(高山委員)

ありがとうございます。出来上がったばかりなのですね。聞いたことがないなと思いまして。

もう一つ、5ページのK P Iですけども、一番下に「職員を対象とした研修会の開催」とあって、基準値が昨年度1回となっていて、多分市民協働係が中心になってやられたのかなというイメージは湧くのですが、もしお話いただけて可能ならば具体的にどんなテーマで、何時間ぐらいで、どれぐらいの人数が参加されたのかを教えてくださいませんか。

目標値が毎年度開催というのは、すごくぼんやりとした、開催すれば良いという目標値というのはどうなのかなと思いまして、もっと別の目標値の立て方があるのかなというところがそもそもあるのですけれども、とりあえず追々ご検討いただければ良いので、昨年度はどんなことをやられたのでしょうか。

(石附企画政策課主査)

昨年度、初めてこういった研修を開催したのですけれども、NPO法人で市民協働に関わってみえる有識者の方をお招きして、職員を対象に研修会をやったところです。すみませんが、参加者数が今分からないのですが、仕事で関係するかしないかに関わらず、各課から職員にご参加いただいて研修を行ったところです。

研修のテーマとしては、市民協働とはどういったことなのかということで、実際に私たちもこの計画策定に当たって市民参画会議なんかをやっていますけれども、実際に市民協働とはどんなものかというのは、確かに仕事上あまり意識してやっていたとは言えないところがありまして、どうやって市民の方に参加していただいて、一緒になってまちづくりをしていくかというのはすごく大事なことだと思いますので、そういった意識をまず作っていきたいということでございます。

(高山委員)

市民協働というとぼんやりしているので、私もぜひ研修を聞いてみたいなと思いました。

(水谷座長)

ありがとうございます。開催回数で今は目標値を作っていますけれども、例えば職員の方の満足度だとか、職員の方が実際の仕事にどう生かせるかとか、実際仕事にどう生かしたかとか、そういったことはアンケートで聞くことは可能でしょうか。

(石附企画政策課主査)

可能だと思います。そういった指標も今後フォローアップをしていく中で、こういう方向に向かっていった方が良いのではないかというのが見えてきた段階で、追加していきたいと思っています。

(水谷座長)

ありがとうございます。他はいかがでしょうか。福井委員のご質問についてはいかがでしょうか。事務局からのご説明はございますでしょうか。

(石附企画政策課主査)

情報共有の場づくりのKPIですけれども、来月に入りますと広報紙が配られますが、そこに「協働テラス」というものを開催しますという内容が載ってくるのですけれども、試行的に今年度から情報共有の場ということで「協働テラス」というものを開催していく予定です。

ただ、これも情報共有の場として、本当にそれをやって良かったのかどうかという

ことが、今回やってみて判断していきたいということがありまして、形自体も来年度以降それを引き続きやっていく、5年間やっていくということはちょっと言えない状況でして、そのためK P Iとしては載せていないというところです。

(水谷座長)

ありがとうございます。K P Iは四つありますけれども、回数とか人数というふうになっていますので、ぜひ今後は質の部分ですね。その方々がどう思われたのか、どういうふうにつながられたのか、その辺りの指標も取っていけると良いかなと思います。ありがとうございます。

(高山委員)

基本目標の三つ、例えば人を育て・つなげて地域を活性化した結果として経済効果が出たり、住み続けたいと感じたり、つながっていくという部分で、今回は大丈夫ですが、5年後に忘れてしまっているかもしれませんが、横断的な目標の組み方ができないのかなと全体的に感じました。

前回の資料で、全国の事例の中に「黒壁プロジェクト」という事例がありまして、観光客とか地元の人が黒い木の札を1枚千円で寄付して買って、街道沿いを黒壁にしようというもので、これはやはり地域の人が我々でやっていこうという意識でやって、結局観光にも発展して行って、最終的には住みやすくなるのだろうなという、一つの良い例だなと感じました。

(水谷座長)

ありがとうございます。非常に重要なご指摘をいただけたと思います。それをどう入れていくかということですね。基本目標が三つに分かれているので、それを統合するような何かが、もしかしたらあった方が良いのかもしれないですね。

(高山委員)

次回、5年後に向けて考えていただけたらと思います。

(水谷座長)

5年後に向けて、宿題というか、皆様課題認識を持っていこうということですね。ありがとうございます。

では次に、もう一つありまして、5ページの右側「4 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略 2020 のマネジメントサイクル」について、ご意見いただければと思います。

一つは今高山委員から出た、こういう会議で今すぐではないけれども、もうちょっと将来、長い目で見てこうしてはどうかというものも、どこかに記載しておくという

のは大事なかなというふうには思います。

マネジメントサイクルは、目の前の改善も大事だと思いますが、長期の改善というか、新たなビジョンというか、そういったものを出していかれると良いのではないかと思います。皆様いかがでしょうか。小川委員、よろしいですか。

(小川委員)

ここに書いてあることに関しては全然問題はないのですけれども、常に実行していくことが大切で、5年後だけではなくて、今やれることは今やってほしいと思います。ここには直接関係はありませんが。

(水谷座長)

ありがとうございます。今やれることは今やっっていこうということですね。それも書いても良いかもしれないですね。マネジメントサイクルとして、こういうふうな考え方でやっていくという中に、5年後を見つつだけれども今やれることはやっていくという一言を入れても良いような気がします。それは何か問題ありますか。

(石附企画政策課主査)

そうですね。確かに行政的な書き方になってしまっているの、あまりそこが見えない部分ではあるのですけれども、この基本目標を大きな目標として今回定めた上で、そこに向かって何をやっていくかというのを毎年、去年何をやって、近づいているかどうか、これから何が必要になるのかということ、この推進会議の場でもご意見をいただいて、やれるものは次年度の予算に反映するとか、そこはそういう形で毎年度、事務事業の見直しというのはそういう意味合いでやっていきたいと思います。

(水谷座長)

そうですね。恐らく当たり前になっている部分かと思うのですが、明示されるとより市民には分かりやすいかもしれないですね。名倉委員、どうぞ。

(名倉委員)

先生がおっしゃるとおり長期的なスパンでもしっかり見ていただくと、そこを評価するというのではなくて、ちゃんとそういうものがあると、道筋が一つ見えるのかなという感じはします。

(水谷座長)

ありがとうございます。浅井委員、よろしいですか。

(浅井委員)

資料4の「若い世代へのまちづくりに関するインタビュー」ですけれども、本当にこういうものは大事だなと思いました。読んでいて全く同意見というか、市民の声を拾っていただいて、忌憚のない意見が言い合える場というのは素晴らしいなと思います。市民の生の声が反映されているなというところがあって、これは継続してやっていただくと良いですね。

(水谷座長)

ありがとうございます。小川委員にご協力をいただいて、若い世代へのインタビューを実施できました。どうもありがとうございました。高山委員、最後よろしいですか。

(高山委員)

はい。結構でございます。

(水谷座長)

ありがとうございます。それでは、意見も出尽くしたようですので、総合戦略の素案について、おおむね事務局案のとおり進めるということでよろしいでしょうか。

「異議なし」の声

ありがとうございます。

それでは、こちらを基に今後総合計画審議会での議論を進めてまいりますので、よろしく願いいたします。

以上で本日予定されておりました議事は全て終了いたしました。最後にご意見、ご質問等、何かありましたらお願いします。よろしいですか。

それでは、以上をもちまして令和元年度 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を終了いたします。

皆様どうもありがとうございました。

それでは、事務局に進行をお返しします。

4 閉会

(後藤企画政策課長)

皆様本当に長時間どうもありがとうございました。

本日皆様からご意見いただいた総合戦略の素案につきましては、このご意見等を踏まえた修正を行った上で、来月になりますが7月17日の水曜日に開催予定の第3回総合計画審議会において、総合計画の後期基本計画と併せて検討を進めさせていただく予定としております。

また、総合計画審議会の委員でございます水谷座長と高山委員につきましては、引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

なお、次回の推進会議につきましては、先ほども申し上げましたように、本年度はこれにて終了させていただく予定としております。来年の今頃、夏頃の開催ということで開催を予定させていただいておりますので、またちょっと先になりますが、ご協力をよろしくお願ひしたいと思ひます。詳細につきましては改めてご連絡させていただきますので、ご了解いただきたいと思います。

それでは、本日は本当に長い間、ご審議ありがとうございました。お足下等気をつけてお帰りになっていただければと思ひますので、よろしくお願ひいたします。お疲れ様でした。

問い合わせ先	企画部 企画政策課 電話 052-400-2911 (内線3251)
--------	---------------------------------------

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

署名委員 浅井 啓太郎

署名委員 高山 孝治